

 市場価格

ドル建て      ドル/toz

Platinum	Price	Date
Open	949.00	2023/8/28
High	988.30	2023/9/1
Low	939.92	2023/8/28
Close	964.49	2023/9/1

円建て      円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4468.00	2023/8/28
High	4643.00	2023/8/30
Low	4426.00	2023/8/28
Close	4533.00	2023/9/1

ドル建て      ドル/toz

Palladium	Price	Date
Open	1222.00	2023/8/21
High	1260.00	2023/8/23
Low	1211.00	2023/9/1
Close	1217.71	2023/8/25

円建て      円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	5766.00	2023/8/28
High	5957.00	2023/8/28
Low	5682.00	2023/9/1
Close	5741.00	2023/9/1

 ニュースエクスプレス**「カウンターシカル」なノーザム・プラチナム、PGM 市場低迷でも過去10年で初の配当金**

6月30日付けで終了した今年度のノーザム・プラチナムの業績は、PGM 市場が不況で早期には回復が見込まれないことを受け、大きく減益となった。しかも同社は同業でただ一社だけ、ここ10年来初めてとなる配当金を支払い、しかも次の支払いもそれほど遠い将来のことではないとしている。

同社は、今後は、投資家から長期にわたって要求されていたヘッドライン収益の最低 25% の配当金を支払う方針を確立すると9月1日に発表した。投資業には、2023年の利潤から現金で 34億ランド (263億円)、配当金として一割あたり 5 ランドの合計で 24億ランド、そして自社株買いによる10億ランドが支払われている。

<https://www.dailymaverick.co.za/article/2023-08-27-counterfycical-norham-platinum-pays-first-dividend-in-over-a-decade-in-face-of-depressed-pgm-market/>

**再生可能燃料としての水素の普及がプラチナ需要に与える影響**

バンク・オブ・アメリカのグローバル・リサーチ・コモディティ・ストラテジストで、同行の「Global Metals Weekly Report」の共同執筆者である Michael Widmer 氏は、世界で構築されつつある水素サプライチェーンは、実質「プラチナでできている」と言い切っている。

2030年までに固体高分子型水電解装置が水素製造の主流となり、マーケットシェアの 7 割を占めるようになれば、プラチナの需要は24.2トン増えるが、ネットゼロへの動きが加速すれば、これは74.6トンに膨らむ可能性もある。

固体高分子型水電解装置の原理は電気を使って水を水素と酸素ガスに分解する。

同行のデータは、ワールド・プラチナ・インベスメント・カウンシルが5月に発表したデータと対照的で、ワールド・プラチナ・インベスメント・カウンシルは2023年のプラチナ供給予測は、今年初めに予測された223.9トンよりも7.3トン少なく、2022年より1%少なくなるとしている。

今まで水素製造は主にニッケルを使うアルカリ水電解装置によるものだったが、近年はプラチナを使う固体高分子型水電解装置に大きく比重が移っている。現在設置されている世界の水電解装置の中で固体高分子型水電解装置のシェアは32%。

アルカリ水電解装置と固体高分子型水電解装置がほとんどを占める中、アニオン交換膜を電解質膜に用いる技術や、固体膜化物形電解セルによる水電解技術は商業スケールに至るまでになっていない。

Widmer氏によると、現在の予測でいくと、世界の水電解能力は毎年倍増し、2030年までには 205 キガワットに達する可能性もあり、2022年に1キガワットにすら達しなかった状況からは雲泥の差となる。

水電解装置の生産に関しては、中国が世界の 55% のマーケットシェアを占め、続いて欧州と米国が合わせて 40% を占めている。

欧州はグリーンテクノロジーを積極的に進めており、ドイツは国内の水電解能力の2030年の目標を当初の 5 キガワットから 10 キガワットに増やしている。欧州ではインフラへの投資も増えており、2030年までに約 3万3000 キロにわたる水素パイプラインネットワークを敷設し、それを2040年までには 5万8000キロに延ばす計画だ。

交通・運輸セクターの焦点はプラチナを多く使う固体高分子燃料電池で、燃料電池自動車にとっては商業ベースで唯一現実的な技術となる。

バンク・オブ・アメリカによると、燃料電池自動車は普及率を低く見積もっても、2030年までに 4.4トンのプラチナが必要となるなど、プラチナ需要に大きく貢献するだろう。

<https://www.metalsdaily.com/link/345285/what-the-ascend-of-hydrogen-as-a-renewable-resource-means-for-platinum-demand.htm>

Translated by Kazuko OSAWA

 WPIC直近の活動

WPICは、8月22日に中国深圳市に事務局を正式オープンした。国内有数のゴールドとプラチナ製品の製造業者と卸業者が集まる深圳市の中心、水貝地区にある事務局は、WPICの中国での活動の中心である上海オフィスを支えることになり、WPICのプロダクト・パートナーである 広東省黄金協會の プラチナ委員会、LPM Group、Quanfeng Platinum、Yueheng Jewellery、4社との共同運営。詳しくは添付のWPIC、プラチナ豆知識—深圳のプラチナをご覧ください。

[https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/jp/WPIC\\_60seconds\\_Platinum\\_inShenzhen\\_08\\_30\\_2023\\_JA.pdf](https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/jp/WPIC_60seconds_Platinum_inShenzhen_08_30_2023_JA.pdf)



免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、wvicの投資提案を推奨するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。